短 報

穿刺吸引細胞診で扁平上皮癌と誤判定した石灰化上皮腫の1例

(財)倉敷中央病院病理検査科

尾関 祐里 則松 良明 古谷満寿美 沖野 毅
津嘉山朝達

I. はじめに

石灰化上皮腫 (calcifying epithelioma) は、毛母細胞由来の良性腫瘍であり、若年者の頭頸部に好発する^{1~3)}。

今回われわれは、下顎角部穿刺吸引細胞診で扁平上皮癌と誤判定した石灰化上皮腫の1例を経験したので報告する。

II. 症 例

患 者：52歳，女性

主 訴：右耳下方（下顎角部）腫瘍

既往歴，家族歴：特記事項なし

現病歴：1994年8月頃より，右耳下方（下顎角部）に小さなしこりを自覚し，近医を受診。生検の結果，基底細胞腫または扁平上皮癌とされ，当院耳鼻科を受診した。腫瘍は直径1.4cmで軟らかく可動性があり，皮膚との癒着を認めた。穿刺吸引細胞診が施行された後，腫瘍切除術を行った。

III. 細胞所見

組織球（単～多核）とリンパ球，好中球のみられる炎症性背景の中に（写真1a）明瞭な核小体を有する基底細胞様細胞の集塊（写真1b）と，中層型異型細胞，真珠形成を伴う異型細胞（写真1c），ゴースト細胞

写真1 a：組織球（単～多核）と，リンパ球，好中球を背景に基底細胞様細胞集塊（矢印）がみられる（パパンニコウ染色，×4），b：明瞭な核小体を有する基底細胞様細胞の集塊，c：真珠形成を伴う異型細胞（b，c：パパンニコウ染色，×100）

A case of calcifying epithelioma of the neck-fine needle aspiration cytology and differential diagnosis

Yuri OZEKI, C.T., I.A.C., Yoshiaki NORIMATSU, C.T., I. A.C., Masumi FURUTANI, C.T., I.A.C., Takeshi OKINO, M.D., Choutatsu TSUKAYAMA, M.D.

Department of Pathology, Kurashiki Central Hospital

論文別刷請求先 ☎710 倉敷市美和1の1の1 (財)倉敷中央病院病理検査科 尾関祐里

平成8年11月11日受付

平成9年6月13日受理

写真2 a, b: ゴースト細胞と見誤った陰影細胞 (a, b: パパニコロウ染色, ×100), c: 好塩基性細胞の増生 (矢印) と, 細胞陰影だけを残す陰影細胞 (*) よりなる結節性病変 (ヘマトキシリン・エオジン染色, ×4)

胞 (写真2 a, b) などがみられ, class 5, 扁平上皮癌と診断した。

IV. 組織所見

境界明瞭な結節性病変を形成し, ヘマトキシリンで淡青色に染色される細胞境界不明瞭な小型の好塩基性細胞と, それに移行するエオジン淡染性の核の陰影を残す陰影細胞より構成されていた。また, それらの細胞を取り囲んで, 異物巨細胞の反応や, リンパ球, 好中球の浸潤がみられ, 石灰化上皮腫と診断された (写真2 c)。なお, 明らかな石灰化は認められなかった。

V. 考察

石灰化上皮腫に出現する特徴的な細胞として陰影細胞があげられる。これは通常の無核の角化扁平上皮とは異なりパパニコロウ染色に難染性で, 細胞質は淡黄褐色～淡赤褐色顆粒状の所見を呈する細胞である⁵⁾。今回われわれはこれらの細胞を癌細胞の変性・壊死をおこし脱核したゴースト細胞と解釈したが, ① ゴースト細胞は大きさが大小さまざまであるが陰影細胞は比較的均一である。② 基底細胞様細胞から陰影細胞へ移行する中間の細胞がみられることなどを考慮し, ゴースト細胞ではなく陰影細胞とすべきであった。

さらに, 当初癌細胞とした核小体の腫大した基底細胞様細胞も再鏡検では, 配列の規則正しさ, 核形態やクロマチンの均一性から良性と判断するのが妥当と思われた。

また, 背景の多核組織球や, 今回は認められなかったが, 石灰化物も診断の一助となると思われた。

今後, 皮膚腫瘤穿刺吸引細胞診の診断を行う際には, 石灰化上皮腫も念頭に入れ, 注意深く細胞を観察する必要がある。

文 献

- 1) 石川栄世, 牛島 有, 遠城寺宗知. 外科病理学. 2版. 東京: 文光堂, 1990: 43.
- 2) 宮地 徹. 臨床組織病理学. 改訂第12版第1刷. 東京: 杏林書院, 1976: 781.
- 3) Wickremaratchi, T., Collins, C.M.P. Pilomatixoma or calcifying epithelioma of Malherbe invading bone. Histopathology 1992; 21: 79~81.
- 4) 広根孝衛, 鈴木啓之. 皮膚臨床電顕アトラス I. 1版. 東京: 講談社, 1989: 84~85.
- 5) 越川 卓, 中村栄男, 所 喜朗, 伊藤 緑, 上山勇二, 長谷川泰久. 石灰化上皮腫 (毛母腫) 二症例の穿刺吸引細胞所見について. 日本病理学会会誌 (抄) 1995; 84: 208.